

「天竺の大論尚其の類に非ず。真旦の大師何ぞ勞わしく語るに及ばん。此れ誇耀に非ず、法相の然らしむるのみ」等云云。天親・竜樹・馬鳴・堅慧等は内鑑冷然たり。然りと雖も時未だ至らざるが故に之を宣べざるか。大師に於ては、天台已前は或は珠を含み、或は一向に之を知らず。已後の大師は或は初めに之を破して後に帰伏する人有り。或は一向に用いざる者も之有り。但し「断諸法中惡」の經文を會すべきなり。彼は法花經に爾前の經文を載するなり。往きて之を見よ。經文分明に十界互具之を説く。所謂「欲令衆生、開仏知見」等云云。天台此の經文を承けて云く、「若し衆生に仏の知見無くんば、何ぞ開を論ずる所あらん。当に知るべし、仏の知見の衆生に蘊在することを」云云。章安大師云く、「衆生に若し仏の知見無くんば、何ぞ開悟する所あらん。若し貧女に藏無くんば、何ぞ示す所あらん」等云云。但し會し難き所は上の教主積尊等の大難なり。此の事を仏遮會して云く、「已今当説、最為難信難解」と。次下の六難九易是なり。天台大師云く、「二門 悉く昔と反すれば、信じ難く、解し難し。鋒に當るの難事なり」。章安大師云く、「仏此を將て大事と為す。何ぞ解し易きことを得べけんや」。傳教大師云く、「此の法花經は最も為れ難信難解なり。随意の故に」等云云。夫れ仏より滅後一千八百余年に至るまで、三國に経歴して但三人のみ有りて、始めて此の正法を覚知せり。所謂月支の積尊・真旦の智者大師・日域の傳教、此の三人は内典の聖人なり。

問うて曰く、竜樹・天親等は如何。答えて曰く、此等の聖人は知りて而も之を言わざりし仁なり。或は迹門の一分之を宣べて本門と觀心とを云わず。或は機有りて時無きか。或は機・時共に之無きか。天台